
私とある不思議なお店

創涙ハカル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私と とある不思議なお店

【Zコード】

Z79060

【作者名】

創涙ハカル

【あらすじ】

前回の久しぶりの来訪者の連載版です。

主人公（野々原恵）は 明くる朝いつもどおり 学校へ向かうため 部屋を出ようとドアを開けると、そこは見知らぬ世界に繋がつて いてー？

主人公がどうなるかは、私も書いて見ないとわかりません。

ドアの先には

カーテン越しに見える陽射しに私は目が覚めた。窓から鳥のさえずり声も聞こえる。

はあ。と思わずため息が漏れた。

「恵。めぐみ やつやと起きなさい！今日は球技大会でしょ」

ううう。思い出したくなかったのに。そう、今日は球技大会なのだ。
しかも種目はサッカー！

私こと野々原恵ののはらめぐみは大の運動音痴であり、運動嫌いだ。

なのでこの球技大会は私にとって地獄といつていい。

「めーぐーみー！起きてるの？」

徐々に母親の声に怒りが含まれてるのを感じて、私は急いで制服に着替えた。

「はいはーい。今行くよ」

母親のお叱りを受けないようだと 急いでドアを開けた瞬間。

ブワッと花びらが勢いよく自分にかかるのを感じた。それと同時に

目を見開く。

「へつ？」

なんせそこは家の廊下じゃなく 辺り一面がお話畠へとなっていたから。

そそ一つと静かにドアを閉めた。気持ちを落ち着かせて振り返る。

「よし、私の部屋だ！」

そして息を呑み、もう一度ドアを開けた。

ブワッと花びらが舞う。

「やつぱり変わらない…」

なにがなんだかわからなかつたが、ものの好奇心が勝つて私は足を進めることにした。

なんとも不思議な光景だった。

辺り一面に咲く花は、スミレや向日葵にバラ、なぜかスノードロップと季節関係なく咲いて美しい色合いを見せている。

空を眺めると快晴のなか、月以外の惑星がなぜか見えていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7906o/>

私とある不思議なお店

2010年11月8日15時30分発行